

JR草津線全線開通

120周年

地域の発展とともに歩み続けて

市内を駆け抜けるJR草津線。その車窓からは、豊かな自然や田園風景、鈴鹿の山並みなど四季折々の景色は、てあひこつが八景の一つにも選定されています。時代とともに、蒸気機関車からディーゼル車、そして電車へと姿を変えながら、多くの人々の情報を乗せて走り続け、2月19日には、全線開通120周年を、また3月3日には全線電化から30周年を迎えます。この間、列車の増発や速度アップ、駅周辺整備などにより、安全性や快適性が高められ、私たちの暮らしを支える重要な役割を果たしてきました。公共交通の要として、甲賀地域の発展を支えてきた草津線。今月号では、草津線の歴史や駅を守る住民の取り組みについてご紹介します。

▼昭和51年の油日駅待合所完成式



▼昭和30年代後半～40年代の甲賀駅



▲昭和30年代の貴生川駅



写真で振り返る草津線の駅



▲昭和41年頃の貴生川駅



▲昭和31年、深川駅から改称されたころの甲南駅



▲駅が開業した昭和34年ごろ、人であふれる寺庄駅ホーム

草津線の歩み

現在の草津線は、JR東海道本線と接続する草津駅(草津市)から関西本線の柘植駅(三重県伊賀市)を結ぶ36.7キロのJR西日本の鉄道路線です。明治22年(1889年)に東海道線の全線開通とともに当時の鉄道会社である関西鉄道会社により、まず草津―三雲間が開通し、翌明治23年(1890年)、三雲―柘植間が延伸開業し(全線開通となりました)。また、昭和55年(1980年)には全線が電化されました。

沿線に残る開業当時の痕跡

沿線には草津線が生まれた明治時代の痕跡が今もあちこちに残っています。

東海道と草津線

中山道とともに江戸時代の東西交通



▲上部に関西鉄道の社紋が見られる国分橋梁

社紋が残るれんがのアーチ橋

を支えた日本の大動脈、東海道。草津線は当時の宿場があったまちを縫うように走っています。これは、明治政府により東海道本線が旧中山道沿いに官設で建設されたため、旧東海道沿いの地域を衰退させないよう滋賀・三重・京都の有力者が「関西鉄道会社」を設立し、新たな路線を敷設したことが原点となっています。

開業当時の様子を描いた絵馬



▲甲南・八坂神社に奉納されている鉄道絵馬

甲南駅(当時の深川駅)近くにある八坂神社(森尻)には、神社絵馬が残っています。これは鉄道開通の喜びを絵馬に託して奉納されたもので、機関車と制服を着た機関士、それを見守る人々(敷設関係者)が八坂神社の鳥居を背景に描かれています。※絵馬は通常非公開となっています。

草津線で出かけよう

「記念イベントを開催」

開通120周年を記念して、沿線では駅を起点としたさまざまなイベントが開催されます。この機会に草津線に乗って出かけてみませんか。

記念ウォーク「草津線の歴史と鉄道遺産に出会う道」

日時 3月21日(日・祝)
集合 10時貴生川駅、解散14時30分頃甲南駅
歩程 約7キロ
コースのポイント
草津線の前身である関西鉄道会社の社紋が残る国分橋梁など、現存する鉄道遺産について現地説明があります。
参加費 300円
定員 先着50名
申込方法
3月5日(金)までに電話またはFAXで企画政策課(☎65・0672・663・4554)まで。

記念スタンプラリー

草津・油日の各駅に設置されたスタンプ2駅分を押し応募すると抽選で200名に沿線市町グッズなどをプレゼント。
期間 3月31日(水)まで

申込方法

草津線各駅などに設置されているチラシ下部の応募はがきに必要な事項を記入の上、スタンプ2個を押し郵送問い合わせ
滋賀県草津線複線化促進期成同盟
会事務局
☎077・528・3684

パネル展

草津線の歴史をレトロな写真や映像、鉄道模型で振り返ります。
期間 2月18日(木)～23日(火)
場所 近鉄百貨店草津店(草津駅徒歩1分)

資料展

草津線敷設の工事風景写真など貴重な資料を展示します。
期間 2月21日(日)まで
場所 湖南市立甲西図書館(甲西駅徒歩7分)

120周年記念列車運行

昔懐かしいディーゼル機関車が、観光用客車ジョイフルトレインあすかを引っ張り、草津駅―柘植駅間を走ります。
日時 2月20日(土)
草津駅発11時30分頃、柘植駅着12時25分頃予定
※乗車予約は満席となりました。

レンタサイクル貸し出し中

草津・石部・甲南・寺庄・油日の各駅では、レンタサイクルを整備しています。渋滞知らずで歴史ある街道やかくれ里を観光してみませんか。

草津線を 守り育てる 住民の力

市内を通る新名神高速道路や国道1号などの道路網整備が進み、人や物などの移動手段は車が主流となつていきます。しかし、通勤や通学、高齢の方などにとっての鉄道は、欠くことのできない大切な交通手段です。最近では、環境面や安全面などから、鉄道などの交通機関を見直す人も急増し、市内でも住民自らが立ち上がり、草津線を積極的に活用したまちづくりの動きがあります。

これまでも「JR草津線とまちづくりの会」や「甲賀駅を育てる会」、「油日駅を守る会」が活動していた。昨年は、これらの住民組織が中心となって、観光協会や商工会など45団体で構成する「JR草津線複線化促進とまちづくり推進協議会」が設立され、利用促進など草津線の利便性向上に向けた取り組みが行われています。今月号では、そうした住民団体の中から、設立後、37年間が過ぎた「油日駅を守る会」のメンバーで、日ごろから同駅に勤務する瀬古さんにお話を聞きました。

**昔と変わらない
ほのぼのとした駅の光景**
～地元住民が見守る油日駅～

合室の壁に地元の写真やラフの作品が飾られ、いすには清潔なカバーがかかった座布団が並ぶ油日駅。住民のボランティアが支えるこの駅では、「油日駅を守る会」の会員3人が、日替わりで朝7時から夕方5時まで駅を管理しています。

ここに働いて7年、月の半分ほど勤める瀬古龍郎さんは、券売機や売店の管理、改札、駅舎内外の清掃など幅広い業務をこなしながら、利用客と言葉を交わします。最初の頃は、あいさつの声をかけても素通りしていた学生も、今では元気よく「おっちゃん、ただいま」と言ってくれるようになったそうです。また、近くの寺社



▲乗客を見守る駅員の瀬古さん



▲巻物を持った忍者をイメージした油日駅

を訪れる観光客や登山客も多く、道案内も大切な仕事。行き届いた説明ができるのも地元を知り尽くした駅員さんならではです。

平成14年に新駅舎となり、駐車場も整備され、利用客も増えたそうですが、かつてにぎやかだった駅周辺の商店街も今はひっそりし、車の往来ばかり。「待ち時間に立ち寄れる喫茶店でもあれば、訪れる人を思い、瀬古さんはそう願っています。

お客の乗り忘れがないか、駅舎の外まで出て確認したり、幼児やお年寄りの乗り降りには、段差に注意を払ったりと細やかな気配りを欠かしません。こうした地元の駅員さんに、駅は今日も温かく見守られています。

複線化など夢あふれる草津線 実現に向けてご利用を

草津線は、駅を守り育てる沿線住民の活動によって支えられてきました。今後も住民活動が同線を支え、甲賀市のさらなる発展のための大きな原動力となります。

まもなく迎える120周年を刻み続ける歴史の節目として、草津線は歩み続けます。また、将来計画されているリニアモーターカー整備などに向けた重要な路線であり、その可能性は大きなものがあります。市では、今年から寺庄駅の駅舎改修や周辺整備を行うほか、ご利用者

の声を受けて増便や車両の更新などの要望を引き続いてJRに届けていきますが、複線化に向けては何より利用者数が今よりもっと増えなければなりません。

120年の間、地域に欠かせない鉄道として親しまれてきた草津線が、この先、さらに便利で快適な交通機関となるためにも、皆さんのご協力をお願いします。



▼寺庄駅での利用啓発キャンペーン



草津線全線開通120周年 ・電化30周年 記念フォーラム 参加無料

テーマ/「マイルール草津線」～草津線の可能性と沿線地域の未来～
日時/3月13日(土)午後1時～3時15分 場所/湖南市石部文化ホール
主催/滋賀県草津線複線化促進期成同盟会

- 内容/①開会セレモニー 観光フォトコンテスト表彰など
②基調講演 講師 西川りゅうじん氏
演題 草津線沿線(地域イキイキ化)計画
③パネルディスカッション
コーディネーター 西川りゅうじん氏
パネラー 嘉田会長(滋賀県知事)ほか
④閉会セレモニー フォーラムアピール



西川りゅうじん氏
プロフィール

マーケティングコンサルタント

愛・地球博の「モリゾーとキッコロ」や平城遷都祭の「せんとかん」の選定・広報、「つくばエクスプレス」沿線PR、「成田新高速鉄道」沿線まちづくり、京都駅ビル建設時の商業施設コンサル、「土佐・龍馬であい博」総合プロデュースなど地域と産業の元氣化に手腕を発揮。

司会はテレビでおなじみの中島静佳アナウンサー(湖南市出身)。
ロビーでは、草津線の懐かしい写真やパネルの展示のほか、
辻良樹氏(鉄道旅行作家)保有の資料展が開催されます

※駐車スペースが限られており、ご来場の際は公共交通をご利用ください。
石部駅から会場までは無料シャトルバスが運行されます。